

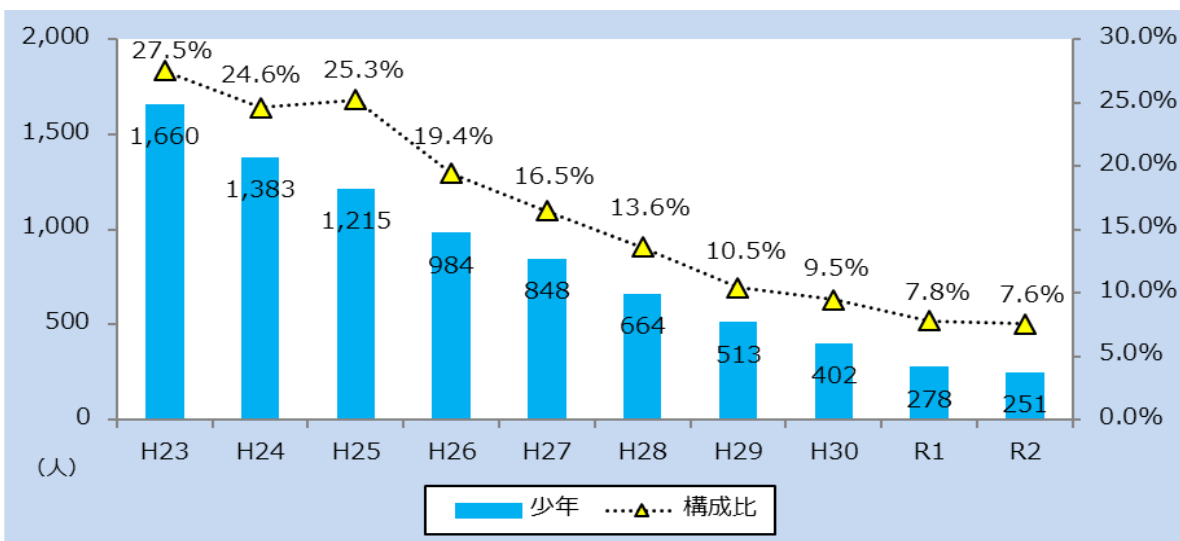
第2 刑法犯少年

POINT!

- 検挙人員は**251**人（前年比-27人）で10年連続**減少**
- 刑法犯少年のおよそ4人に1人が**万引き**での検挙
- 少年の二セ電話詐欺の検挙人数は3人で、前年から8人（-72.7%）**減少**

1 検挙人員、刑法犯総検挙人員に占める少年の割合及び人口比

- 検挙人員は251人で、前年に比べ27人（9.7%）**減少**しました。
- 刑法犯総検挙人員に占める少年の割合（構成比）は7.6%で、前年に比べ0.2ポイント**低下**しました。
- 茨城県の少年人口（14～19歳）は157,886人で、前年に比べ4,153人（2.6%）**減少**しました。
- 少年の人口比は1.6人で、前年に比べ0.1人**減少**しました。
また、成人の人口比に比べ0.3人**多くな**っています。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	前年比 増減率	
	刑法犯総検挙人員	6,032	5,611	4,809	5,068	5,141	4,873	4,909	4,237	3,562	3,311	-251
少年	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	251	-27	-9.7%
うち女子	280	214	156	96	78	60	50	56	28	29	1	3.6%
成人	4,372	4,228	3,594	4,084	4,293	4,209	4,396	3,835	3,284	3,060	-224	-6.8%
刑法犯総検挙人員に占める少年の割合 (構成比)	27.5%	24.6%	25.3%	19.4%	16.5%	13.6%	10.5%	9.5%	7.8%	7.6%	-0.2P	-
少年人口	175,555	174,816	173,338	171,241	170,269	169,764	168,631	165,797	162,039	157,886	-4,153	-2.6%
人口比	9.5	7.9	7.0	5.7	5.0	3.9	3.0	2.4	1.7	1.6	-0.1	-
成人人口	2,416,416	2,411,819	2,406,330	2,401,620	2,412,268	2,406,074	2,401,376	2,396,035	2,390,282	2,386,218	-4,064	-0.2%
人口比	1.8	1.8	1.5	1.7	1.8	1.7	1.8	1.6	1.4	1.3	-0.1	-

注：表中の少年人口は、茨城県政策企画部統計課の「茨城県常住人口調査（茨城県の年齢別人口）」（令和2年10月1日現在）から14～19歳までの人口を抜粋しました。また、成人人口については、20歳以上の人口を抜粋しました。

2 包括罪種・手口別検挙状況

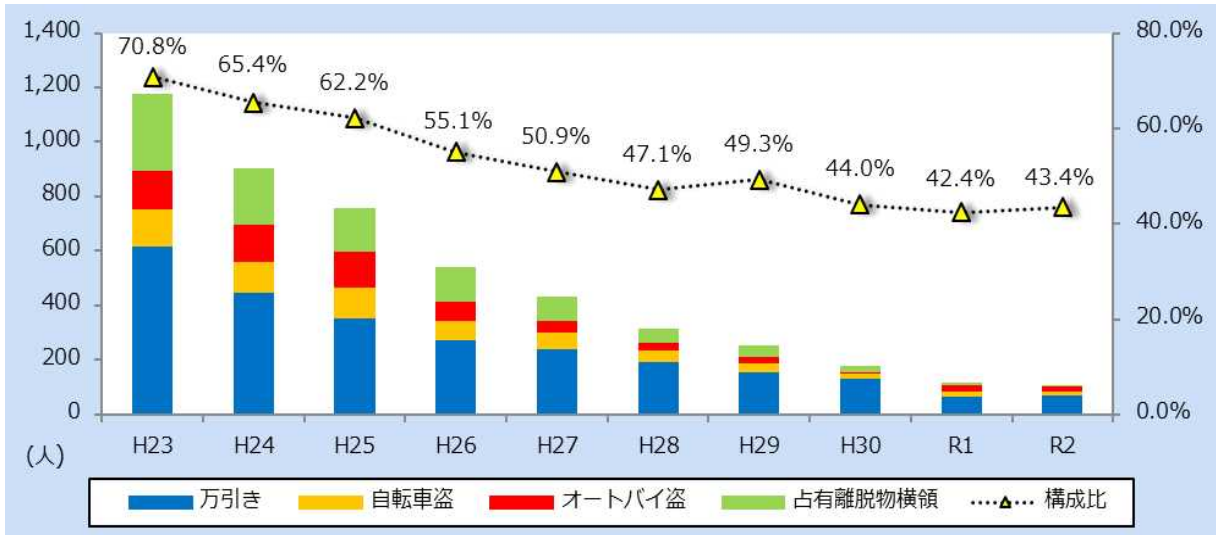
(1) 推移

令和2年中は、前年に比べ、窃盗犯は13人（8.6%）、知能犯は3人（33.3%）、風俗犯は3人（30.0%）、その他の刑法犯は16人（35.6%）**減少**しましたが、凶悪犯は5人（55.6%）、粗暴犯は3人（5.6%）**増加**しました。

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R2	
											前年比	増減率
総数	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	251	-27	-9.7%
凶悪犯	15	24	23	13	26	16	11	6	9	14	5	55.6%
殺人	1	1	1	1	1	1	2	2	0	0	±0	-
強盗	7	20	21	10	22	14	0	1	7	11	4	57.1%
放火	6	1	0	2	1	0	2	0	0	1	1	-
強制性交等	1	2	1	0	2	1	7	3	2	2	±0	-
粗暴犯	185	202	197	164	165	118	85	83	54	57	3	5.6%
暴行	14	40	54	35	31	22	21	17	20	16	-4	-20.0%
傷害	132	132	120	102	119	84	54	42	30	36	6	20.0%
恐喝	28	28	21	15	14	10	10	21	4	4	±0	-
その他	11	2	2	12	1	2	0	3	0	1	1	-
窃盗犯	1,005	814	719	563	474	384	269	225	151	138	-13	-8.6%
侵入盗	20	30	22	42	32	20	18	16	9	11	2	22.2%
空き巣	9	8	4	3	6	6	3	10	5	1	-4	-80.0%
居空き	0	1	1	1	2	0	0	2	0	0	±0	-
出店荒し	5	10	3	22	16	2	3	1	0	1	1	-
倉庫荒し	0	2	2	4	1	4	0	0	1	6	5	500.0%
学校荒し	3	2	2	0	2	5	0	0	1	1	±0	-
その他	3	7	10	12	5	3	12	3	2	2	±0	-
非侵入盗	700	515	430	363	318	271	191	180	100	89	-11	-11.0%
万引き	617	446	352	272	239	194	156	130	66	69	3	4.5%
車上ねらい	11	11	7	1	5	1	4	0	0	0	±0	-
自販機ねらい	0	6	10	13	31	18	6	11	4	0	-4	-100.0%
部品ねらい	7	10	16	10	17	7	2	4	3	3	±0	-
ひったくり	4	4	4	10	0	2	1	5	0	1	1	-
置き引き	9	4	5	10	5	7	4	5	3	1	-2	-66.7%
その他	52	34	36	47	21	42	18	25	24	15	-9	-37.5%
乗り物盗	285	269	267	158	124	93	60	29	42	38	-4	-9.5%
自動車盗	7	21	23	18	22	24	7	2	2	5	3	150.0%
オートバイ盗	144	132	129	69	41	30	21	9	23	18	-5	-21.7%
自転車盗	134	116	115	71	61	39	32	18	17	15	-2	-11.8%
知能犯	11	14	10	21	26	18	33	34	9	6	-3	-33.3%
詐欺	10	13	9	20	22	16	28	34	9	6	-3	-33.3%
その他	1	1	1	1	4	2	5	0	0	0	±0	-
風俗犯	4	9	6	10	7	9	11	3	10	7	-3	-30.0%
強制わいせつ	3	5	4	10	7	8	10	3	10	5	-5	-50.0%
その他	1	4	2	0	0	1	1	0	0	2	2	-
その他の刑法犯	440	320	260	213	150	119	104	51	45	29	-16	-35.6%
占有離脱物横領	280	211	160	130	91	50	44	20	12	7	-5	-41.7%
住居侵入	45	31	28	38	10	31	21	15	19	9	-10	-52.6%
器物損壊	53	26	34	27	23	12	17	3	6	8	2	33.3%
盗品等	25	17	6	9	12	3	8	2	2	2	±0	-
その他	37	35	32	9	14	23	14	11	6	3	-3	-50.0%

(2) 初発型非行の推移

刑法犯少年に占める初発型非行の割合（構成比）は、概ね減少傾向にあります。令和2年中は43.4%で前年と比べ1.0ポイント**上昇**しました。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	前年比	増減率
刑法犯少年	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	251	-27	-9.7%
初発型非行	1,175	905	756	542	432	313	253	177	118	109	-9	-7.6%
万引き	617	446	352	272	239	194	156	130	66	69	3	4.5%
自転車盗	134	116	115	69	61	39	32	18	17	15	-2	-11.8%
オートバイ盗	144	132	129	71	41	30	21	9	23	18	-5	-21.7%
占有離脱物横領	280	211	160	130	91	50	44	20	12	7	-5	-41.7%
刑法犯少年全体に占める初発型非行の割合(構成比)	70.8%	65.4%	62.2%	55.1%	50.9%	47.1%	49.3%	44.0%	42.4%	43.4%	+1.0P	-



初発型非行とは？

初発型非行とは、**万引き、自転車盗、オートバイ盗及び占有離脱物横領**の4罪種をいいます。

「遊び型非行」などと呼ばれることもあり、刑法犯少年が統計開始以降最多となった「第3のピーク」期から、刑法犯少年の約6割を初発型非行で検挙された少年が占めるようになり、以降、現在まで高い割合を占め続けています。

初発型非行は、**動機が単純で、犯行も簡単であり罪の意識のハードルが低い**という特徴があります。犯罪を繰り返すうちに犯罪意識が薄れ、徐々にエスカレートする傾向があるので、決して安易に対応してはいけません。

3 年齢別検挙状況

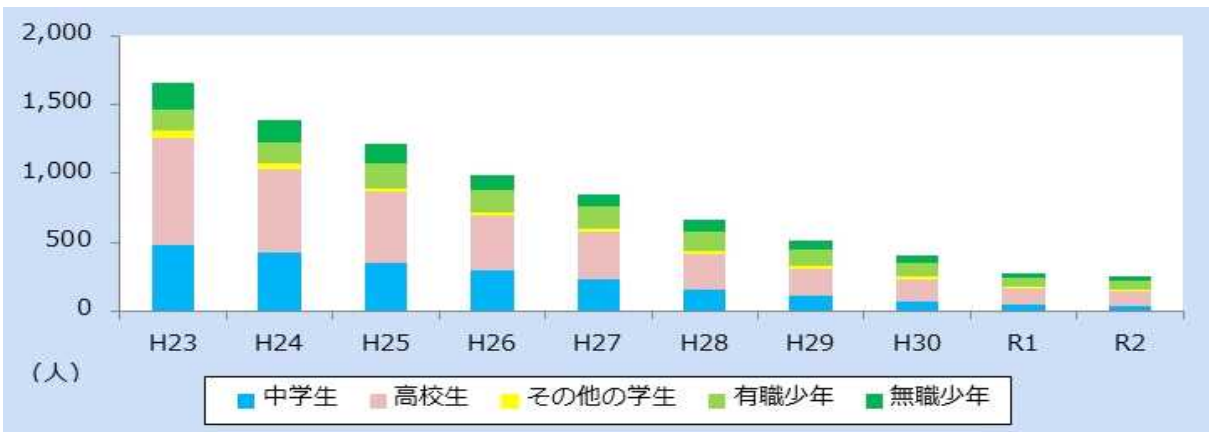
令和2年中は、16歳が63人で最も多く、刑法犯少年の25.1%を占めました。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2			
											前年比	増減率	構成比
総数	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	251	-27	-9.7%	-
14歳	323	278	244	195	152	106	66	41	30	27	-3	-10.0%	10.8%
15歳	420	351	285	252	166	121	89	55	31	30	-1	-3.2%	12.0%
16歳	448	321	298	228	199	143	110	100	69	63	-6	-8.7%	25.1%
17歳	240	233	205	153	140	114	100	95	66	54	-12	-18.2%	21.5%
18歳	140	124	113	87	106	117	68	56	47	34	-13	-27.7%	13.5%
19歳	89	76	70	69	85	63	80	55	35	43	8	22.9%	17.1%

4 学職別検挙状況

令和2年中は、高校生が109人で最も多く、刑法犯少年の43.4%を占めました。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2			
											前年比	増減率	構成比
総数	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	251	-27	-9.7%	-
中学生	477	422	353	302	233	158	109	69	44	40	-4	-9.1%	15.9%
高校生	777	611	515	391	345	257	195	160	124	109	-15	-12.1%	43.4%
その他の学生	56	36	26	21	22	22	20	24	11	7	-4	-36.4%	2.8%
有職少年	152	156	180	161	161	141	119	98	64	66	2	3.1%	26.3%
無職少年	198	158	141	109	87	86	70	51	35	29	-6	-17.1%	11.6%

注：「その他の学生」とは、大学生及び専修学校生等

(1) 中学生の非行

ア 検挙人員の推移

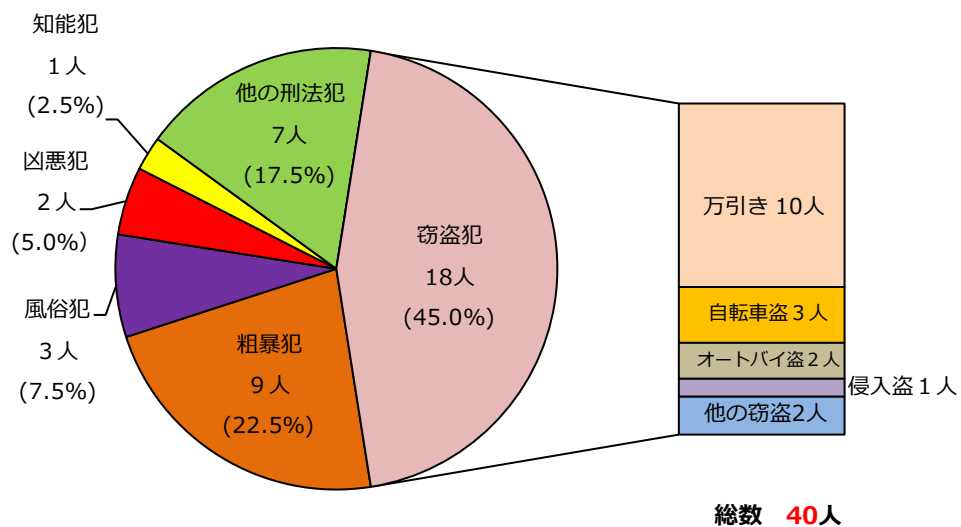
検挙人員は10年連続で減少が続いており、令和2年中は40人で、前年に比べ4人（9.1%）減少しました。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2		
										前年比	増減率	
中学生	477	422	353	302	233	158	109	69	44	40	-4	-9.1%
うち男子	403	348	302	275	211	144	103	62	41	35	-6	-14.6%
うち女子	74	74	51	27	22	14	6	7	3	5	2	66.7%

イ 包括罪種別検挙状況

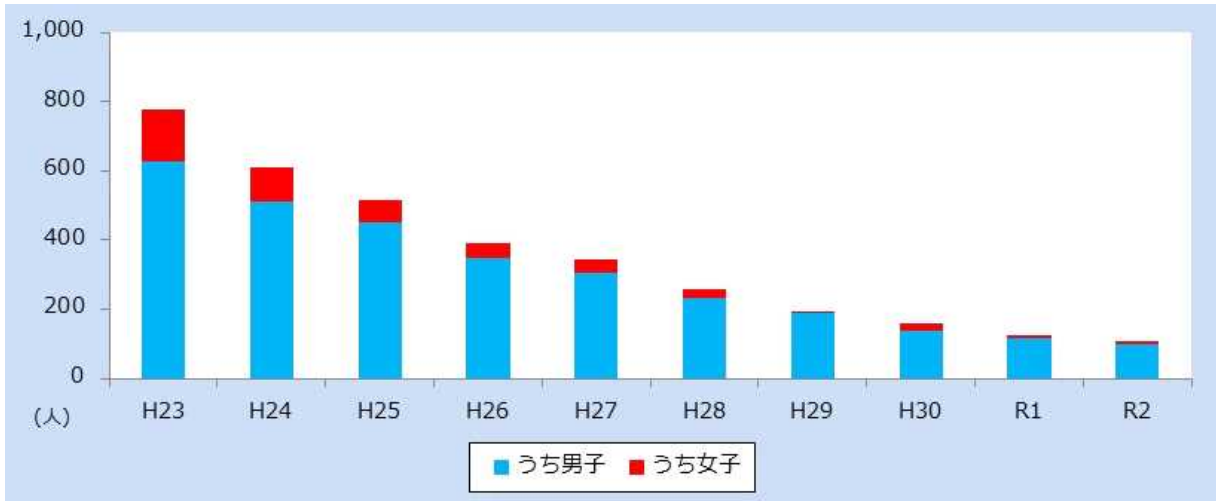
- 包括罪種別の検挙状況は、窃盗犯が18人で最も多く、中学生全体の45.0%を占めました。
- 窃盗犯の手口別では、万引きが10人で最も多く、窃盗犯として検挙された中学生の55.6%を占めました。



(2) 高校生の非行

ア 検挙人員の推移

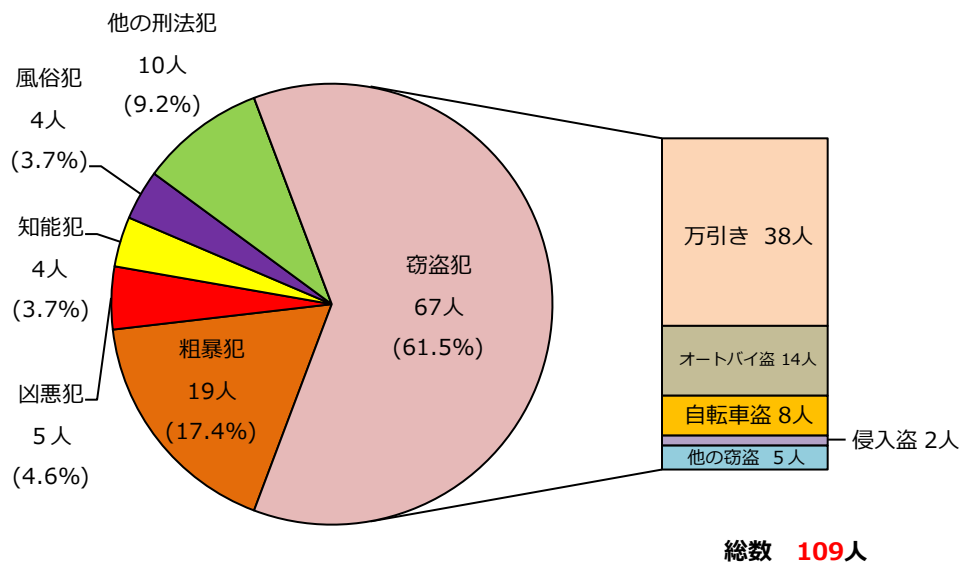
検挙人員は平成23年から減少が続いており、令和2年中は109人で、前年に比べ15人（12.1%）減少しました。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2		
										前年比	増減率	
高校生	777	611	515	391	345	257	195	160	124	109	-15	-12.1%
うち男子	628	509	449	350	307	232	177	139	114	99	-15	-13.2%
うち女子	149	102	66	41	38	25	18	21	10	10	±0	-

イ 包括罪種別検挙状況

- 包括罪種別の検挙状況は、窃盗犯が67人で最も多く、高校生全体の61.5%を占めました。
- 窃盗犯の手口別では、万引きが38人で最も多く、窃盗犯として検挙された高校生の56.7%を占めました。



(3) 有職少年の非行

ア 検挙人員の推移

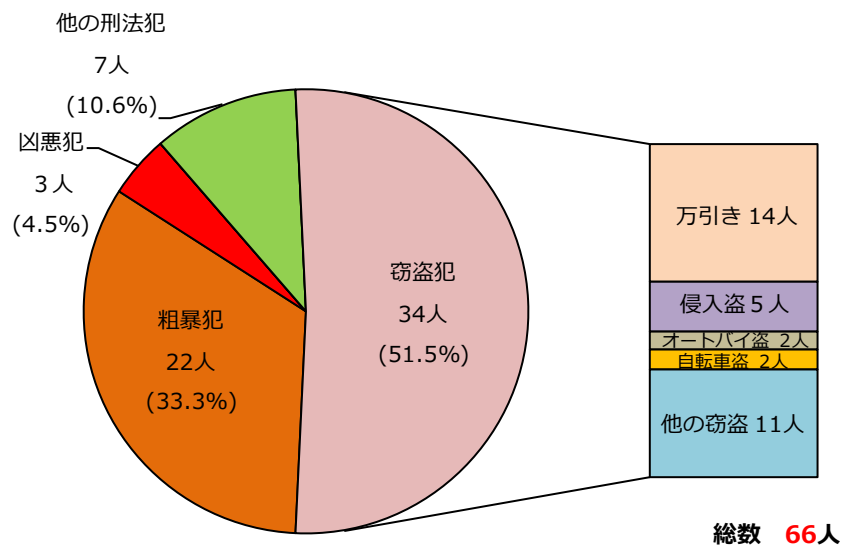
検挙人員は平成26年から減少傾向にありましたが、令和2年中は66人で、前年に比べ2人（3.1%）増加しました。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	前年比	増減率
	有職少年	152	156	180	161	161	141	119	98	64	66	2
うち男子	145	144	166	148	153	137	111	81	54	57	3	5.6%
うち女子	7	12	14	13	8	4	8	17	10	9	-1	-10.0%

イ 包括罪種別検挙状況

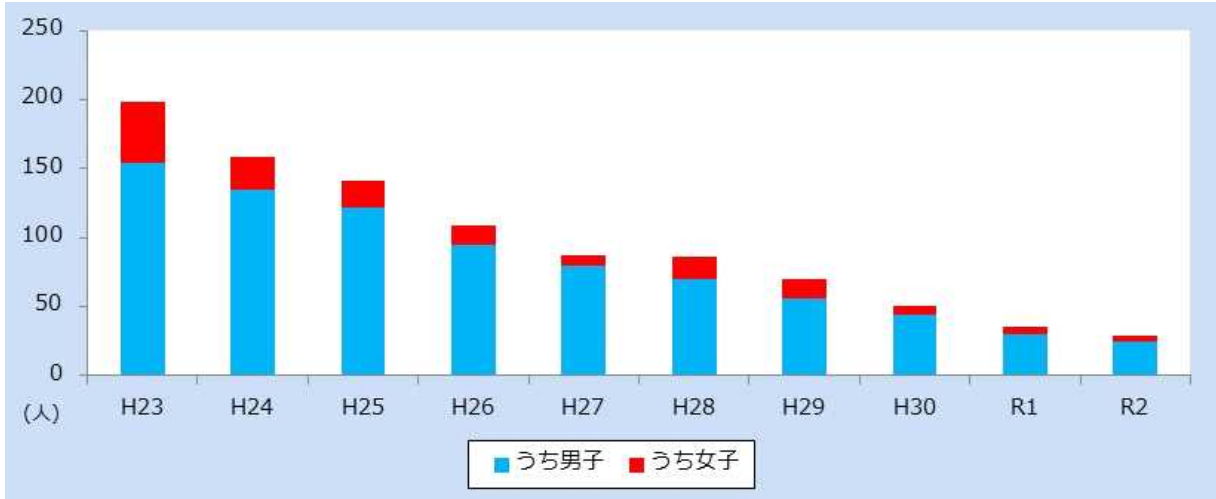
- 包括罪種別の検挙状況は、窃盗犯が34人で最も多く、有職少年全体の51.5%を占めました。
- 窃盗犯の手口別では、万引きが14人で最も多く、窃盗犯として検挙された有職少年の41.2%を占めました。



(4) 無職少年の非行

ア 検挙人員の推移

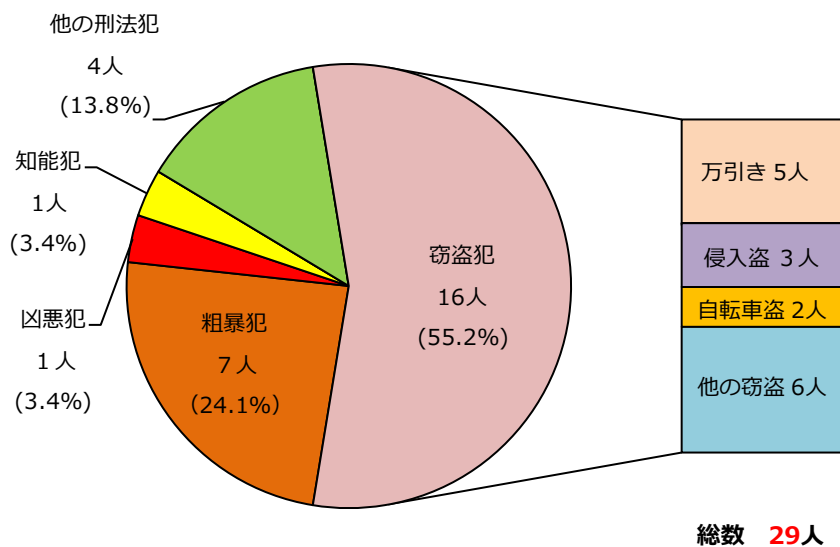
検挙人員は平成23年から減少が続いており、令和2年中は29人で、前年に比べ6人（17.1%）減少しました。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2		
										前年比	増減率	
無職少年	198	158	141	109	87	86	70	51	35	29	-6	-17.1%
うち男子	154	135	122	95	80	70	56	44	30	25	-5	-16.7%
うち女子	44	23	19	14	7	16	14	7	5	4	-1	-20.0%

イ 包括罪種別検挙状況

- 包括罪種別の検挙状況は、窃盗犯が16人で最も多く、無職少年全体の55.2%を占めました。
- 窃盗犯の手口別では、万引きが5人で最も多く、窃盗犯として検挙された無職少年の31.3%を占めました。

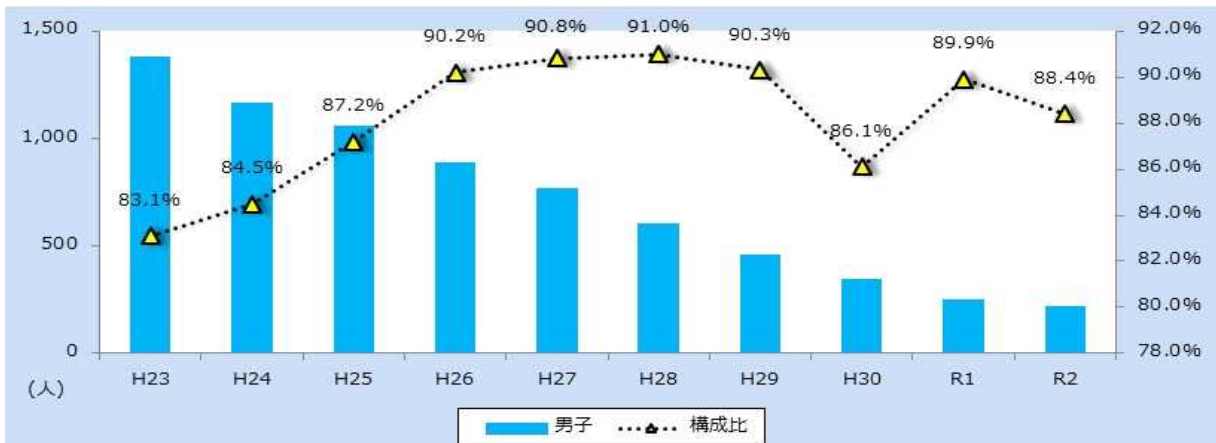


5 男女別検挙状況

(1) 男子の非行

ア 検挙人員の推移

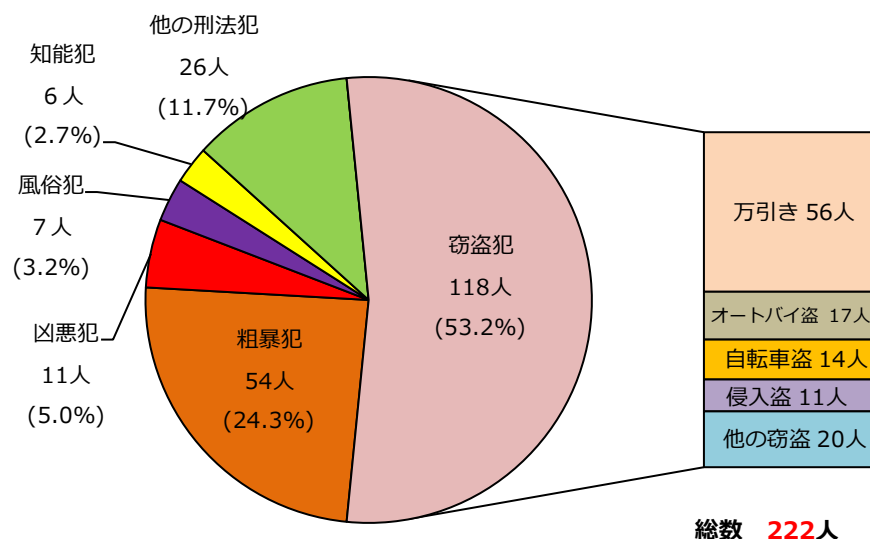
- 検挙人員は平成23年から減少が続いており、令和2年中は222人で、前年に比べ28人（11.2%）減少しました。
- 刑法犯少年に占める男子の割合（構成比）は88.4%で、前年に比べ1.5ポイント減少しました。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2		
										前年比	増減率	
刑法犯少年	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	251	-27	-9.7%
うち男子	1,380	1,169	1,059	888	770	604	463	346	250	222	-28	-11.2%
構成比	83.1%	84.5%	87.2%	90.2%	90.8%	91.0%	90.3%	86.1%	89.9%	88.4%	-1.5P	-

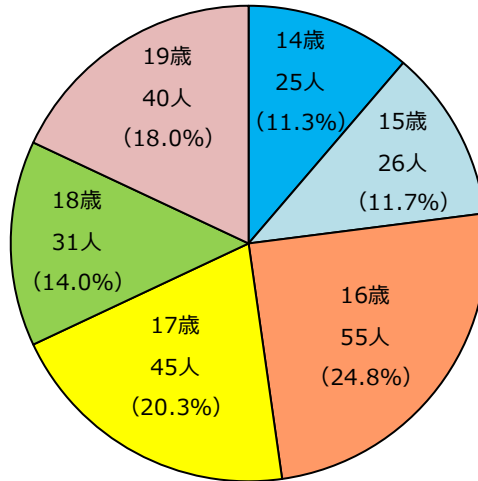
イ 包括罪種別検挙状況

- 包括罪種別の検挙状況は、窃盗犯が118人で最も多く、刑法犯少年（男子）の53.2%を占めました。
- 窃盗犯の手口別では、万引きが56人で最も多く、窃盗犯として検挙された刑法犯少年（男子）の47.5%を占めました。



ウ 年齢別

16歳が55人で最も多く、刑法犯少年（男子）の24.8%を占め、次いで17歳が45人で、刑法犯少年（男子）の20.3%を占めました。

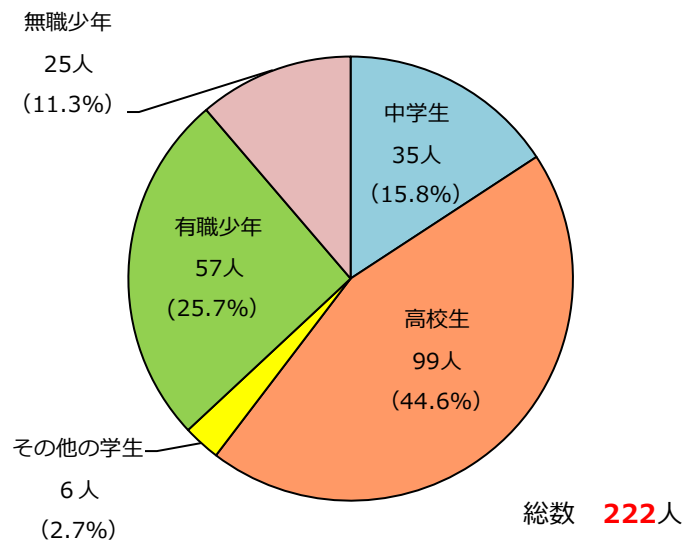


総数 **222**人

	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	総数
刑法犯少年（男子）	25	26	55	45	31	40	222
構成比	11.3%	11.7%	24.8%	20.3%	14.0%	18.0%	-

エ 学職別

高校生が99人で最も多く、刑法犯少年（男子）の44.6%を占め、次いで有職少年が57人で、刑法犯少年（男子）の25.7%を占めました。



総数 **222**人

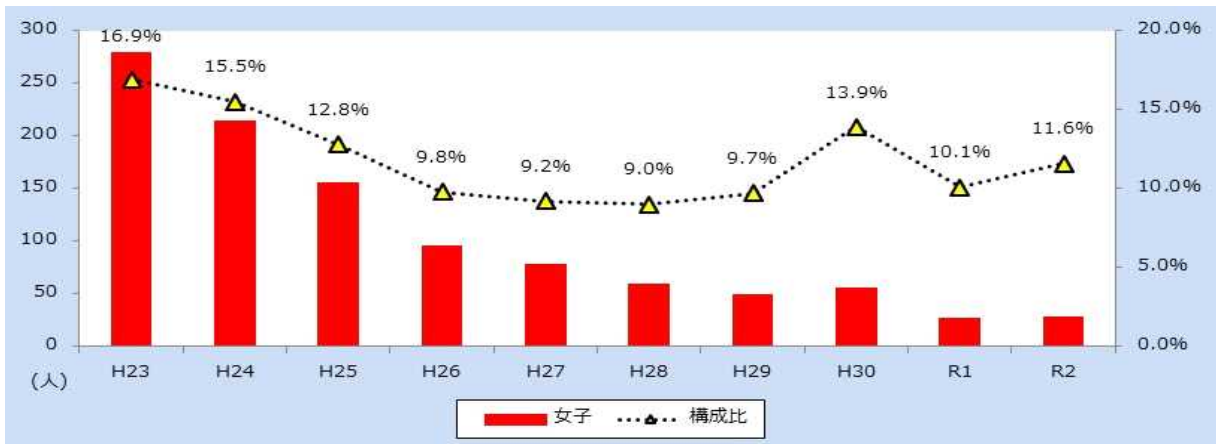
	中学生	高校生	その他の学生	有職少年	無職少年	総数
刑法犯少年（男子）	35	99	6	57	25	222
構成比	15.8%	44.6%	2.7%	25.7%	11.3%	-

注：「その他の学生」とは、大学生及び専修学校生等

(2) 女子の非行

ア 検挙人員の推移

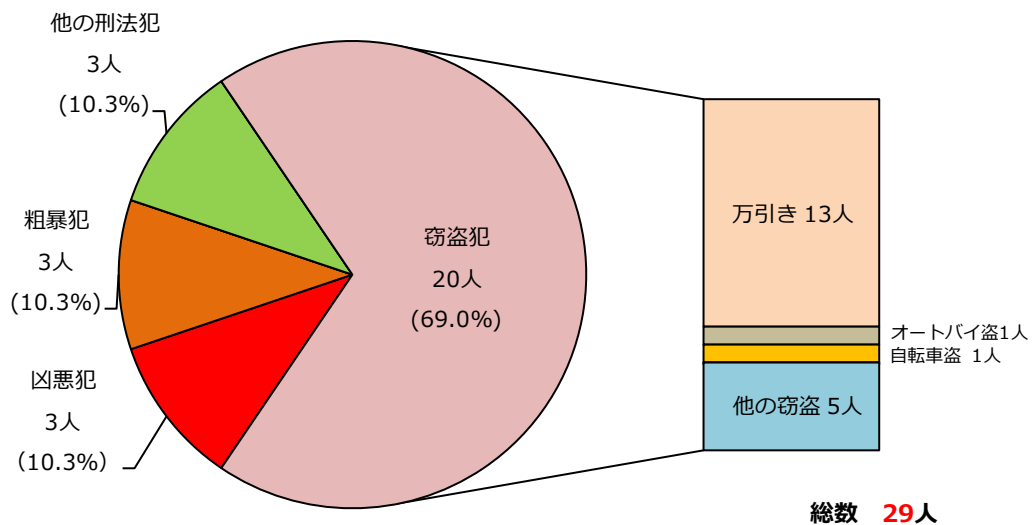
- 検挙人員は平成23年から平成29年まで減少していましたが、平成29年から増加傾向にあり、令和2年中は29人で、前年に比べ1人（3.6%）増加しました。
- 刑法犯少年に占める女子の割合（構成比）は11.6%で、前年に比べ1.5ポイント上昇しました。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2		
										前年比	増減率	
刑法犯少年	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	251	-27	-9.7%
うち女子	280	214	156	96	78	60	50	56	28	29	1	3.6%
構成比	16.9%	15.5%	12.8%	9.8%	9.2%	9.0%	9.7%	13.9%	10.1%	11.6%	+1.5P	-

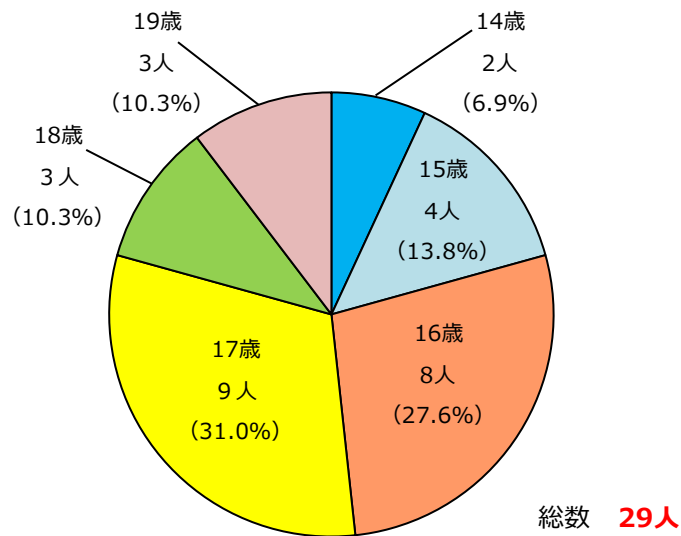
イ 包括罪種別検挙状況

- 包括罪種別の検挙状況は、窃盗犯が20人で最も多く、刑法犯少年（女子）の69.0%を占めました。
- 窃盗犯の手口別では、万引きが13人で最も多く、窃盗犯として検挙された刑法犯少年（女子）の65.0%を占めました。



ウ 年齢別

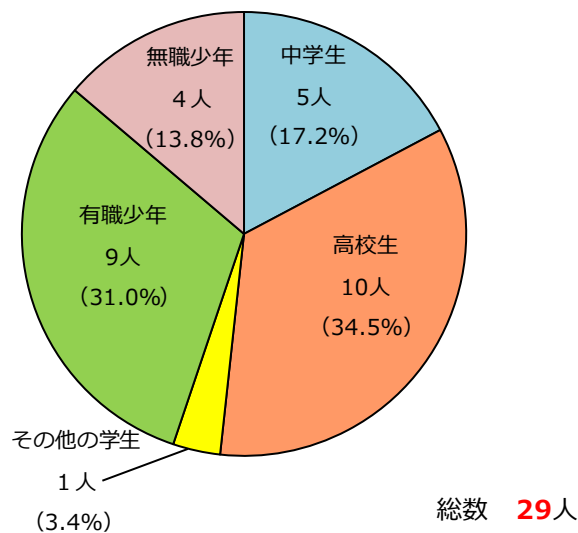
17歳が9人で最も多く、刑法犯少年（女子）の31.0%を占め、次いで16歳が8人で、刑法犯少年（女子）の27.6%を占めました。



	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	総数
刑法犯少年（女子）	2	4	8	9	3	3	29
構成比	6.9%	13.8%	27.6%	31.0%	10.3%	10.3%	-

エ 学職別

高校生が10名で最も多く、刑法犯少年（女子）の34.5%を占め、次いで、有職少年が9人で、刑法犯少年（女子）の31.0%を占めました。

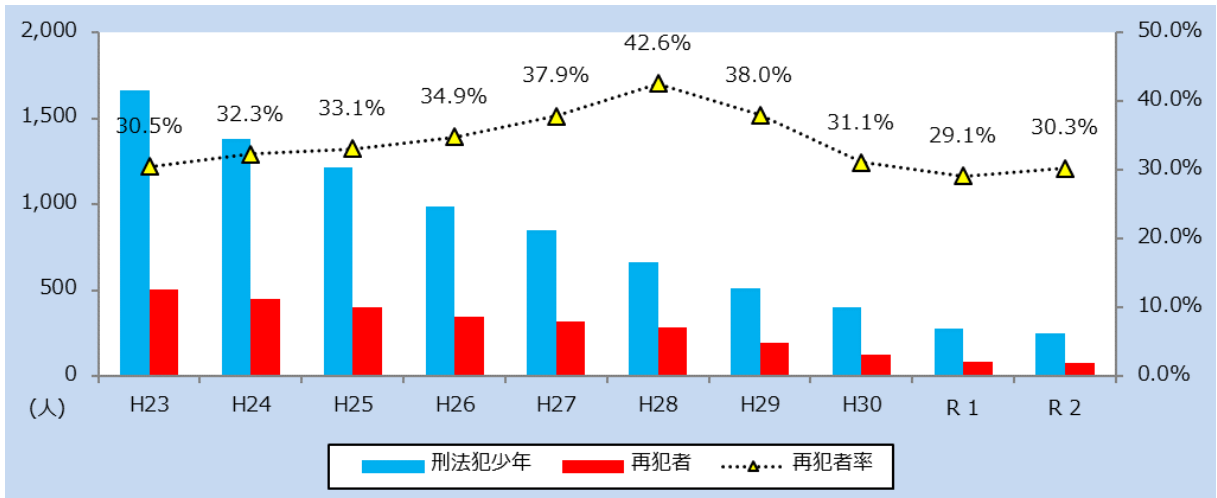


	中学生	高校生	その他の学生	有職少年	無職少年	総数
刑法犯少年（女子）	5	10	1	9	4	29
構成比	17.2%	34.5%	3.4%	31.0%	13.8%	-

注：「その他の学生」とは、大学生及び専修学校生等

6 再犯者率

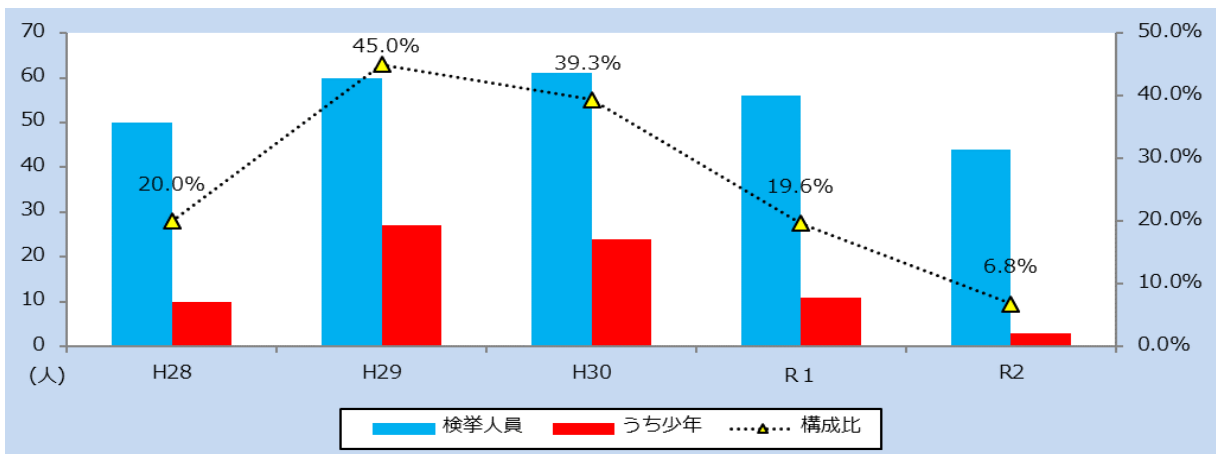
令和2年中、刑法犯少年に占める再犯者数の割合（再犯者率）は30.3%で平成29年からの低下傾向から一転し、前年に比べ1.2ポイント上昇しました。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	前年比	増減率
刑法犯少年	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	251	-27	-9.7%
再犯者	507	447	402	343	321	283	195	125	81	76	-5	-6.2%
再犯者率	30.5%	32.3%	33.1%	34.9%	37.9%	42.6%	38.0%	31.1%	29.1%	30.3%	+1.2P	-

7 少年の二セ電話詐欺加担状況

令和2年中、二セ電話詐欺の検挙人員のうち、少年の検挙人員は3人で、検挙人員に占める少年の割合（構成比）は6.8%となっています。



	H28	H29	H30	R1	R2
検挙人員	50	60	61	56	44
うち少年	10	27	24	11	3
構成比	20.0%	45.0%	39.3%	19.6%	6.8%
認知件数	428	340	364	376	306
検挙件数	47	73	104	157	121